

佐賀県

素材研究
(国内)



「佐賀」を象徴する伝統的地場産品の有田焼



全国から100万人が訪れる有田陶器市の賑わい



登り窯の「攻め焚き」を鑑賞するプロگرامも



秋の陶器祭では「薪焚き」体験も始まりました



バルーンフェスタも佐賀の代表的イベントに



唐津神社の秋季例大祭として知られる「唐津くんち」

「有田焼」創業400年で観光まちづくり 豊かな陶磁器文化や歴史を広く内外に発信

佐賀県では、同県の象徴とも言える「有田焼」が今年で創業400年を迎えたことから、有田町を中心に県内外で年間を通して様々なプロモーションやイベントなどが展開されています。有田焼創業400年を契機に、持続可能な発展を目指す「まちづくり」の取り組みも、有田町でスタートしました。

今年秋には有田町で主要イベント

有田焼の歴史は、豊臣秀吉による朝鮮出兵にまで遡ります。朝鮮半島から多くの陶工が日本に渡り、佐賀藩では1616年(元和2年)に、陶工の李参平が有田で白磁鉢を発見しました。酒井田柿右衛門らが絵の具で模様を描く赤絵付けに成功。17世紀半ば以降はオランダの東インド会社が有田焼を買い付け、「古伊万里」としてヨーロッパの王侯貴族を中心に広がることになりました。

昨年から国内主要都市で、400年有田の魅力展が開催されており、10月と11月には地元有田町一円で「有田まちなかフェスティバル」や同町にある佐賀県立九州陶磁文化館での特別企画展「日本磁器誕生」なども予定されています。

有田町は「豊かな陶磁器文化や歴史を継承して内外に広く発信し、貴重な観光資源でもある有田焼を通じた町の振興や

発展につなげたい」(有田焼創業400年事業推進課)と説明。創業400年記念関連事業として、有田駅構内に有田焼のエクステリアなどを設置し、観光環境の整備にも取り組む方針です。

インバウンドへの訴求力も視野に

有田まちなかフェスティバルは、窯元をはじめ住民自らが様々な企画を考えて来訪者をもてなそうというもので、「有田焼創業400年を機に、観光面からも町を盛り上げよう」という気運が高まっている」(有田焼創業400年事業推進課)といます。佐賀県でも「今年是有田焼創業400年とバルーンフェスタを2本柱に、内外に県の魅力をアピール」(観光課)しており、有田焼が韓国や西欧との歴史的つながりも深いことから、インバウンドへの訴求力も視野に入れています。

今年5月には、佐賀/有田のプロモーションや同県とオランダとの交流の拠点となる「アリアタハウスアムステルダム」をアムステルダム市内に開設。今年12月末まで、有田焼の展示やレクチャー・ワークショップなどの交流事業も実施しています。

有田町で主要イベントが予定されている10月から11月にかけては、佐賀インターナショナルバルーンフェスタ(10月28日～11月6日)や、唐津くんち(11月2～4日)も開催されることから、「集合効果による入り込みの拡大」も期待されています。